

合格サポート定期便（12 年目標試験対策 受験経験者向け）12 月号

12 月号の主な番組内容

12 年目標合格に向けた 12 年目標の受講生（受験経験者）を対象とした合格サポート定期便、第 2 回となります。今回は、高畑講師をゲストに迎え、「財務・会計の学習方法」「事例Ⅳの学習方法」等についてお送りします。

メールの募集について

「合格サポート定期便」は T A C 側からの一方的な情報配信番組ではなく、視聴されている皆さんとコミュニケーションをとりながら、一緒に作り上げていく番組です。

1 月号の予定内容・メールでいただきたいコメント

「平成 23 年度の事例Ⅰ第 3 問、「所有と経営の分離のプラス面、マイナス面」について、どのような内容が想定されるか？（箇条書きでも構いません）」というテーマでメール募集します。その他、「合格サポート定期便」で取り上げて欲しいテーマや情報、番組の感想やご意見など皆様の声をぜひお聞かせください。

※1 月号では「平成 23 年度 T A C 中小企業診断士講座合格祝賀会」実況を村越講師と早坂講師の二人がレポートします。よってメールの紹介は 2 月号とさせていただきます。

【メール受付期間】

随時受け付けております。主に 2012 年 1 月 31 日（火）まで 24 : 00 にいただいたメールについて、2 月号でご紹介していきます。

【メール送付の方法】以下の案内に沿ってメールをお送りください。

- ・ 送付先メールアドレス：shindan-support@tac-school.co.jp
- ・ メールタイトル：「合格サポート定期便係」と記載してください。
- ・ 本文：
 - ① 会員番号・お名前を記載してください。なお、番組内で採用されたメールは、お名前を発表します。匿名やペンネームなどの希望があれば併記してください。
 - ② 教室講座・DVD 講座の方は受講している校舎名（仙台校、新宿校など）、通信講座の方は利用している学習メディア（Web 通信、DVD 通信など）を記載してください。
 - ③ メッセージの書式は自由です。一度にたくさんのコメントをいただいても、一言だけでも結構です。



【ご注意事項】

- ・ ラジオ番組の葉書と同様、いただいたメールに関する回答は番組内でのみ行います。個別にメール返信は行いませんのでご了承ください。
- ・ 学習内容に関するご質問にはお答えできませんのでご了承ください。

以上

～主な内容～

12 月号は事例Ⅳと財務・会計の科目責任者である高畑講師をお呼びして、財務への取り組み方などを伝えていただきます。また、「過去問・1 問 1 答」では、平成 23 年度事例Ⅳの経営分析をテーマに対応方法などをお伝えしていきます！

■テーマ①（高畑講師より）

年末年始の財務・会計の取り組みについて。何をすべきか？題材などは？

○ファイナンスと管理会計を中心に復習を！

財務・会計は、制度会計も含めれば非常に試験範囲が広い科目です。しかし、事例Ⅳを踏まえれば、ファイナンスと管理会計が基軸になります。そのため、あまり簿記などに偏り過ぎず、万遍なく復習をしていきましょう。また、会計基準対策として「追補レジュメ」がありますが、そちらも忘れずに確認・見直しをしてください。

★現在、「追補レジュメ」に対応した「会計基準・会計原則 フォロー講義」を T A C 動画チャンネルにて配信しています。

＜対象者＞

2012 年目標の初学者向け・経験者向けコースで「財務・会計」を受講中の方

＜使用教材＞

追補レジュメ（ID・パスワード掲載）

※通学生の方 11/4（金）より配布

※通信生の方 初学者 11/28（月）発送 / 経験者 11/9（水）発送

○分野別に整理する

テキストや講義で指摘されている過去問題はすべて見直しましょう。その際、まずは WACC や CAPM 理論、投資計算など分野別に整理してください（上級テキストはそのような作りになっていますね）。また、整理する過程で、ご自身でノートなど作成しても構いません。たとえば、ページ左上に問題、左下にご自身の解答と正解の考え方、右側に派生する知識などを書き込む、という方法は後から見返してもわかりやすいです。また、余白を設けておくと、後で追加したい論点も加えることができます。最終的にはそれらの知識をつなげて一連の流れで説明できるとさらに good！です。

※ノートを作成することが目的ではないので、ご注意を！

○三位一体！！

理論は、グラフと算式から成り立つものです。それぞれ密接に関わっているので、丁寧に紐解いていきましょう。また、WACC の説明の際に図解を用いました。字面ばかり追うのではなく、なるべく図解をしながら記憶していきましょう。

■テーマ②

平成 23 年度事例Ⅳ 経営分析

【経営指標の主な解答割合】※サンプル数は 50

収益性	売上高総利益率	5%
	売上高営業利益率	0%
	売上高経常利益率	95%
効率性	棚卸資産回転率	40%
	有形固定資産回転率	40%
	売上債権回転率	10%
	総資本回転率	20%
安全性	負債比率	80%
	自己資本比率	10%
	流動比率	0%
	当座比率	0%

★ポイント：有形固定資産回転率の運命は？

- 「経年すればするほど簿価が小さくなるため、有形固定資産回転率が大きくなる（つまり、あまり良い状態ではない）」「新設備にすれば最初は簿価が大きいの、有形固定資産回転率は小さくなる（つまり、必ずしも悪い状態ではない）」といういずれの考え方もあるため、一概に有形固定資産回転率の指摘の良し悪しを断定できない。
- 上記の表からも分かるように有形固定資産回転率と棚卸資産回転率は割れているため、（仮に棚卸資産回転率が正解だったとしても）それほど差はついていないと想定される。
- よって、本試験会場では、問題本文や財務諸表から読み取れる内容を中心に、記述をしっかりと書き上げることを優先する。

■テーマ③

経営分析の対応方法

→1 つの参考として個別問題との連動性の有無

手順 1：第 1 問（経営分析）で改善策が求められているかどうか？を確認。

手順 2：Yes→連動性なし→個別問題は個別問題で対応可能。

No→連動性あり→経営指標と個別問題が関連している可能性あり。

※個別問題で経営指標を改善させる流れ

（平成 18 年度～平成 22 年度パターン）。

手順 3：No の時は特に注意。先に解答を書き上げないほうが無難（後で指標に気づくことがあるため）。